



災害科学国際研究所

【部局のミッション（基本理念・使命）】

○災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、我が国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることを設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

○私たちは、あらゆる英知を結集して実践的防災学の研究に取り組み、東日本大震災からの速やかかつ創造的な復興に貢献します。特に日本では類例をみない文理連携型の研究所として、理学、工学、医学からの先端的災害研究を推進するとともに、人間と社会を対象とする人文社会科学を含めた学際的な研究を先導し、日本及び世界の中核的災害研究拠点となることを目指します。

【重点戦略・展開施策】

1. 災害科学研究の世界的拠点

地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指します。

2. 文理連携及び多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様です。それに応えるため、分野横断的・学際融合的な研究を促進し、研究の間口を広げていきます。

3. 実践的防災学の構築

災害発生前の事前対策、発災時の対処や復興まちづくりの諸対策等、災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本及び世界の防災対策にも積極的に貢献します。

4. 防災知識を身に付けた人材の育成

防災科学研究の成果を教育課程で積極的に展開します。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生のメカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせます。大学院の専門教育やリーディングプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進及び新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組みます。

5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠です。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取組を進めることができるよう、小中学校及び高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及を図ります。

6. 産官学及び地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠です。自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界との間では防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発に取り組みます。社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取組を進めます。

7. 国際社会との連携強化

2015年に仙台市で開催される国連防災世界会議では、企画段階から外務省、仙台市等と協力し、研究成果を世界的に発信します。環太平洋大学協会（APRU：Association of Pacific Rim Universities）との共催で「APRU-IRiDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活性化させます。災害対策技術の標準化に取り組む国際機関（国連等）や海外の研究機関との連携を通じて防災対策の国際標準化を目指し、本研究所が世界の減災対策向上へ先導的な役割を果たします。

8. 全国共同利用・共同研究拠点の認定

大学を超えた研究機関として文部科学大臣が認定する全国共同利用・共同研究拠点となることを目指します。拠点として認定されるための卓越した実績を積み重ね、研究ネットワークの構築にも不断に取り組みます。